

— 「つどい場さくらちゃん」 17年目を前に —

「つどい場さくらちゃん」をそもそも創ろうと思ったきっかけは？

今から 17 年前にそれまでの 10 数年来の家族の「介護」の体験の中での後悔と希望の想いと「介護保険」がスタートから 4 年経っている中での「制度」への怒りが「つどい場」を創る後押しでした。介護生活が「名塩」という山の中の不便なところだったので、「つどい場」は、①駅から近いこと（いろんな方々に集まっていただく「つどい場」だから）②西宮市の市役所の近いところ。（介護保険は行政管轄、行政の方々にも集まってほしいから）③社会福祉協議会が近いこと。（地域福祉は社協だから）④家賃が安いこと。この 4 つの条件で不動産屋さんを探していただきました。車いすの方、認知症状のある方、子供さんも来られることを伝えると、物件の半分以上は持ち主からのお断り . . . 20 件目でやっと戸田町のマンションを借りることが出来、2004 年 3 月 1 日に正式にオープン。名前を西宮市の花の「さくら」とちゃんと生きるを合体くつどい場さくらちゃんに決定。

敷金・礼金・家賃 . . . スタートから借金です。「認知症介護者の会」を支えて下さる社協の方、地域福祉課長からアドバイスを戴きながら「運営委員会」を創っていただき、スタートは良かったのですが、半年間来訪者 0 人。

☆「つどい場」＝お茶やコーヒーでは「会議」になる . . . 「会議」はテーマがあり、答えが必要 . . . いろんな立場の人達が立場を超え、昼ご飯を共にしながら、感情の吐露が出来、今の情報交換の〈場〉

☆「おでかけタイ」＝「介護保険」が始まって、一番の変化は街から高齢者を消したこと . . . 「リハビリ」が建物の中だけで完結していること . . . 身体やこころが不自由になっても、サポートするものがいれば、街に旅行に出かけよう！ 外食や旅行を諦めている本人も介護者も介護職も医療職も〈まじくって〉行く旅行—北海道 9 回、お伊勢さん、沖縄、台湾 4 回そして 2019 年は今話題の韓国 . . . 韓国の方々は優しく、食事がホントに旨い。

心が動けば、身体が動く . . . 旅こそ<リハビリ〉。

☆「学びタイ」＝「介護保険」が始まり、今年で 20 年 . . . 有資格者は増大したが、仕事場で、育てる人材がいない現場で、「介護」を仕事にしている人たちも悩み、傷ついている。「介護」の要は「家族」。共に介護技術、制度の事、医療のこと・こころを学び合おうと「講座」を開き、その後は講師・参加者〈まじくって〉の「懇親会」。17 年前には各施設から「学んで来い！」と参加費と有給休暇を . . . 最近は参加介護職員の自腹負担。介護職のやりがい、誇りが持てるためには〈教育〉が重要と感じる。

☆「見守りタイ」＝「介護予防」を声高に叫ばれている昨今。本当の「介護予防」はヒトに話すこと、歩くこと . . . 「介護保険」でヘルパーがやれなくなったこと

が「話し相手」「散歩」・・・生活の中で一番大切な「介護予防」をカットしている。その「介護保険」で出来ないことを「見守りタイ」で出来ないことさせていたどうかとはじめました。

利用料収入だけでは借金がふくらむばかり、毎日毎日来月の家賃をどうして払おう・・・。

「おでかけタイ」の北海道旅行は17年前の7月初めに行きました。今ほど話題になる前の「旭山動物園」行きの希望があったので、伊丹空港から旭川空港に着いたとき飛行機にトラブルが横付け・・・車いすの方々が3名いらっしやるのに・・・屈強な男性3人が機内にはいってこられたのを見てご主人を介護中の奥さんが叫びました。「もし、主人の身に何かあればここにいるひと皆殺しよ！」こわ～いオオサカのおばちゃんの絶叫に無事に降りることが出来ました、翌年も同じコースで「旭川空港」に到着すると車いすで降りられるジャバラが付いて、無事に降りることができました。車いすの方が街に出ると、街がひとのこころが変わります。

在宅に入っているヘルパーさんに、利用者がデイに行かないので、「お風呂」を貸してほしい」「いいよ」・・・この方は小学校の<先生>をしてこられた方で、成績の悪い子は嫌い！と生徒を殴った武勇伝が自慢話しの認知症状の深い方・・・。14年前の12月にがんが見つかり手術を・・・担当医が来年の桜は見れませんかとの告知にみんなで大泣き。12月に手術をしたら翌日から点滴棒を押しながら各病室のカーテンを開けまわり多分小学校の保健室の勘違い。

病院の看護師から24時間見守りをして下さい・・・一人娘さんは精神的に母親との接触をドクターストップ。よし！！「つどい場さくらちゃん」から朝9時から夜9時までボランティアで「見守りタイ」退院を病院から迫られても、「阪神淡路大震災」で、彼女の家は歪んだままで、すきま風がすごい・・・家の外のほうが暖かい状態。そんな家に帰すわけにゆかない・・・お正月明けから「つどい場さくらちゃん」で布団を並べて共に暮らし始めて7か月・・・その間、足音忍ばせ外に出てタクシーを止め、お家に帰られる・・・何度か警察のお世話に・・・。近くにできた「特養」で、週末だけショートステイをさせていただき、その施設に行くと、2人掛けのソファーにおじいちゃんと二人で・・・「どなた？」と聞くと

「主人」と言い放し・・・ストレスでそのおじいちゃんは旅立たれました。よく「つどい場さくらちゃん」に来た下さったグループホーム長に事情を話しショートステイと思ったら今、1部屋空いている・・・娘さんがすぐ手続き・・・そのグループホームから特養・・・と居所を変えながら名医の来年の桜は見られない！・・・あれから10年間生きられました。恐るべし！ストレスの付加がかかりにくい認知症！！

もうお一人、男性が「ショートステイ」を受けてもらえない！との奥さまの一言で、「さくらちゃんへ来てください！！いただきもの高～いブランデーをご持参で、皆さんで飲んでください。社長さんだったので「北新地」のお店のしつらいで、皆でカンパ～イ！この社長さん、途中で、目のやり場が天井に動かれる・・・「北新地」の高級バーにしたら天井の灯りが「蛍光灯」・・・ハテ！？翌日おにぎりをもって植物園へ・・・耳元でささやかれ

ました「ママ!!お店を持たしてあげるから・・・」内心「うああ～嬉しい!!!」
何度かのショートステイ、地域のニーズに答えることこそ「つどい場さくらちゃん」の真骨頂!!!
周囲の勧めがあり、2007年4月にNPO法人となる。

5回目の北海道旅行中に西宮の「つどい場さくらちゃん」の事務局さんから電話が入り、「より駅に近い一軒家に<借家>の札がさがっている」とのことで、帰ってから大家さんと話し合い、
2008年11月に「今在家町」の木造の一軒家の借家に引っ越しました。

スタートのマンションの「つどい場」の半分位の一軒家・・・この狭さがドンピシャ!!!
木造で「つどい場」の狭さ故に話しが近い感情の吐露がし易い。

一軒家に越して、12年・・・介護家族もですが、介護職の方たちが泣きに来られるのが多くなりました。「やりたい介護ではない!」と。

「つどい場さくらちゃん」の17年目を前に、つくづくこれからの時代こそ「つどい場」が身近に必要と思う。

これからの時代に必要とされる「きょういく」(今日いくとこがある)ときょうよう(今日ひつようとされる)

「子供たちに迷惑をかけたくない」は無責任。老いる姿、ボケゆく姿、死にゆく姿を子供や孫たちに見せない・・・それが、先に生を受けたものの務めだと思う。

「介護保険」が20年目に、<介護予防>と<共生>が勧められるだろう。

<介護予防>は、歩くことと、ひとと話すことだと思う。人と話す<場>が「つどい場」。

日本中に<感情の吐露>と<今の情報をキャッチ>ができる「つどい場」がいっぱいできますよ
う!!街中に車いすの人、認知症状のあるひとが溢れたら市民、国民の意識が変わるのではないで
しょうか?

「つどい場」のお陰さまで、いろんな出会いがあり、感動の連続です。

<介護>は、感謝・感動・感激—この3kです。

一度じぶんの<死>を考えませんか?

<死>を迎えるまでに、何処で、どういう風に死にたいかをご家族に伝えませんか?

「ACP」=「人生会議」をして伝えませんか?「伝える」ことを学びましょう!!!

「平等」はみんな<死ぬこと>です。<死ぬ>ことを考えるのは<生きる>ことを考えること。

令和2年2月のある日

つどい場さくらちゃん

まるちゃん